

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぷらネット

第13号



平成二十年度

新しい年度の事業推進へ

さいたま市障害者社会参加推進協議会は五月二十六日、本年度第一回の委員会を開催し、新しい委員を含めて二十一名の方に委員の依頼をし、本年度の事業の承認を得ました。

各団体は九つの事業を今年度いっぱいかけて進めて行きます。各事業は市報にも掲載されます。関係者はもちろん、市民の方々にもぜひ参加していただきたいと願っています。

写真上 実施内容について検討を重ねる実行委員のみなさん

写真下 手話教室第一回目の講師は聴覚障害者協会の町田健一さんでした。



今年度の事業のポイント

知りたい伝えたいと思つ気持ちを大切に

さいたま市障害者社会参加推進センター

センター長 望月 武

今年の企画は九事業

今年の生活訓練等事業は、予算が昨年度より約一割も削減された関係もあって、家族教室四、生活訓練事業五という九事業を実施することになりました。

今年度の企画も、地域の障害者のニーズが反映され、多くの障害者やその家族をはじめ、一般市民の参加も得られるような企画をと、各加盟団体に論議されたものが提出されました。

この九事業は、各加盟団体から出された企画書を四月二十八日の第一回事業委員会で検討協

議し、五月二十六日に開催された第一回社会参加推進協議会総会で決定されたものです。

これらの企画を成功させるために、各企画ごとに企画実行委員会が組織され、今年度もすでに活動が始まっています。

今年度の企画の中から、いくつかの事業について紹介し、多くの皆さんが、これらの事業に関心を寄せ、そして参加されることを祈念します。

大盛況の「手話教室」

一つ目の事業は、すでに始まっている「手話教室」です。こ

の事業は、毎年恒例の事業として、さいたま市難聴者・中途失聴者協会が中心になって行なっています。始めのころはなかなか人が集まらず、さいたま市外の人にまで呼びかけて、事業の成功のために苦労していましたが、今年度は、定員三十五名のところ百名近くの希望者があり、お断りするのが大変だったとのことでした。

この「手話教室」のうれしい事例は、障害者に対する関心の深まりと共に、一つの事業を継続して取り組んできた成果ではないでしょうか。

後期高齢者医療制度を知りたい

二つ目に紹介したい企画は、さいたま市身体障害者福祉協会から出されてきた「後期高齢者医療制度と障害者」という企画についてです。

この四月から始まった後期高齢者医療制度は、高齢者を七十五歳という年齢で一律に区切って差別する制度ですが、障害者は、それより十歳も若い六十五歳から七十四歳の人も対象になっています。加入するかどうかは本人の選択に任されていますが、「加入しません」という書類を出し忘れてしまったために、不本意ながら後期高齢者医療制度に加入させられてしまったという障害者の声もたくさん寄せられています。

「名前が実に冷たい。愛情の抜けたやり方に、老人が全部反発している」(中曽根康弘元首相)

「私を含めた七十五歳以上の人たちは、もはや用済みとばかりに、国が率先して『姥捨て山』をつくったような印象を受けらる」(堀内光雄元総務会長)など自党内からも声が上がっているとの報道もされています。

また、制度の廃止・見直しを求める意見書を可決した地方議会は六百余に達し、三十五都府県の医師会もこの制度の撤廃・見直しを要求しているとのこと

さいたま市でも、八月十日に「後期高齢者医療制度の廃止を求めるさいたま市民の会」の設立総会が開かれました。同会は医師・牧師・弁護士・など七十九人が呼びかけ人に名を連ねています。

この後期高齢者医療制度について、もっと知りたいという声に応えての今回の企画は、講師として埼玉県保険医協会から四名の医師を紹介していただき、岩槻、大宮、浦和、与野と旧四

市で行われます。日時や会場等は市報さいたま九月号情報報オアシス欄に「障害者社会参加推進センターの催し」として、他の二つの企画と共に掲載されておりますので参照してください。詳しくはさいたま市障害者協議会にお問い合わせ下さい。



配布するピラを過不足ないように数える身体障害者福祉協会のみなさん



さいたま市身体障害者福祉協会 家族教室実施予定

9月	9月12日(金) 14:00~16:00	9月14日(日) 14:00~16:00
	岩槻区保健センター内(旧身障会館) 講師：埼玉県保険医協会 松本 光正 氏 さいたま市西区 医療生協おおみや診療所 医師 定員50名	大宮ふれあい福祉センター 講師：埼玉県保険医協会 山崎 利彦 氏 さいたま市浦和区 山崎外科泌尿器科クリニック 院長 定員50名
10月	10月15日(水) 14:00~16:00	10月25日(土) 14:00~16:00
	岸町公民館 講師：埼玉県保険医協会 橋本 英二郎 氏 さいたま市西区 橋本内科クリニック 院長 定員50名	与野本町コミュニティセンター 講師：埼玉県保険医協会 大場 敏明 氏 三郷市 クリニックふれあい早稲田 院長 定員50名

さいたま市難聴者・中途失聴者協会

『手話教室』

これからの予定

- ▶ 9月21日
- ▶ 10月5日・12日・26日
- ▶ 11月16日・30日

全8回のうち9月以降のもの6回
時間はいずれも13時30分から16時30分まで
会場は大宮ふれあい福祉センター

こんにちはわがまちの社会参加推進センター

障害者芸術文化祭 事業をやっています

新潟県障害者社会参加推進

センター所長 荒井 武雄

さいたま市の皆さん、こんにちは。二度にわたる大災害にいただいた皆さんからのご支援と励ましに感謝申し上げます。

当センターは、平成三年県の委託を受け新潟県身体障害者団体連合会が運営を担っています。

当センターが主宰する組織は、障害者社会参加推進協議会と身体、知的、精神の三部会、企画推進委員会等ですが、事業としては、障害者等の相談を受ける障害者一〇番事業、県が委嘱する障害者相談員の研修事業等、その他十九年度までは、盲ろう者向け通訳養成事業がありました。二十年度からは連



新潟県社会参加推進センター相談員研修会グループ討議

合会が県の指定管理者として運営する聴覚障害者情報センターに盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業と合わせて事業を移管しました。

これは、このセンターの目的の一つに聴覚障害者への情報伝達手段の提供を掲げており、手

話通訳者の養成から派遣まで一貫した事業形成を図り、そのメリットを活かすこととしました。

なお、この事業に加わるために登録された通訳・介助員は、現在七十五名、サービス利用盲ろう者は二十名となっています。

また、障害者の芸術文化活動の振興により、自立と豊かで潤いのある日常生活の実現を図るため、県からの委託を受け「障害者芸術文化祭」事業を実施しています。今年度は当センターが設置されている「新潟ふれ愛プラザ」の障害者週間のイベントの一つとして実施し、多くの来場者が期待されています。障害者の自立と社会参加の推進は推進センターの重大な使命であり、小さな成果を積み上げることが大切だと考えています。

障害者一〇番 研修会参加報告

実施日 平成二十年七月九日

会場 虎ノ門パストラル

内容 「あ、い、う、え、おの契約社会」～最近の悪質な手口と特徴：障害者、高齢者の実例をふまえて～

講師 岩澤禮子(全国消費生活相談員協会消費生活専門相談員)

最近の悪質な架空請求や振り込み詐欺、SF商法、点検商法、キャンペーン商法、次々販売、訪問販売などの巧妙な手口の数々、心理的な弱みに付け入る方法の実態を聞き、その巧みさには驚かされた。

これまでさいたま市障害者協議会の一〇番相談には消費者問題はあまりなかったと思われるが、会員の息子さんが携帯電話からみでお金を請求され、二十万円くらい払ってしまったから相談を受けたことがあるが、払ってしまったお金は返らない。決して脅しに乘らず放っておくのが一番で後で何の問題も起きないそうだった。強制的な物言いにひるむと付け込ま

静岡市障害者相談支援 推進センターの運営

センター事務局長 牧野 善浴よじゆう

静岡市障害者協会は、平成十七年九月に身体・知的・精神の三つの障害当事者及び家族の会が集まって発足した団体(約三十団体)です。現在は会員に対する研修事業や防災事業など独自事業と静岡市からの委託事業(静岡市障害者相談支援推進センターの運営)を実施しています。

今回は「障害者相談支援連絡調整会議」(以下、連絡調整会議)と「障害者一〇番事業」を紹介します。

連絡調整会議は、静岡市が年二回開催する「静岡市障害者自立支援協議会」と連携する実働的組織として平成十九年六月に設置されました。三障害の相談支援事業者を中心に関係者(約三十名)の定期的な協議の場と

して毎月一回開催され、困難事例等について意見交換し、支援の調整や課題の検討を行っています。

今年度は地域生活支援の充実を図るため、地域移行への受け皿や人的資源、公的支援のしくみづくりを目的として地域生活支援部会を設置しました。

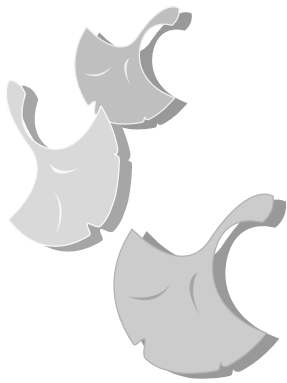
また、障害者一〇番事業は、障害者の日常生活で起こる困りごとや権利擁護に対応するための相談窓口です。障害別相談(火曜/知的、水曜/身体、木曜/精神)では、研修を受けた障害当事者や家族の団体の約三十名が対応しています。常設相談では社会福祉士等の職員が対応しています。

事業を開始した当初は月十件程度しかなかった相談も、昨年度は七五二件と大幅に増加しました。相談の内容も傾聴で済む内容から相談支援事業者に引き継いだり、弁護士相談や法テラスにつながるものまで幅広くな



出張障害者110番での弁護士相談の様子

つています。三障害の団体という新しい形での取り組みですが、当事者の地域生活の充実を目指したいと思います。



れる。断るときは「いいです」ではなく「必要ありません」ときっぱり断ること。決して引っこからないと信じている我々も危ないそうで、大変参考になった。

さいたま市精神障害者家族会連絡会
飯塚 壽美

午後の「相談事例から消費者問題を考える」では、全参加者を以下の三つのグループに分けてグループごとにディスカッションを重ねて経過を報告するとのスタイルで、面白みはあったが全体として拙速の感は否めず、消化不良に終わった。

【事例】

- 一、統合失調症を持つ障害者からの多重債務相談
- 二、障害者用便座をめぐる商品メーカーと業者間のトラブル
- 三、知的障害者へのツーショットダイヤル利用に関わる架空・不当請求

ちなみに、あいうえおの契約社会とは…

- ①あとい日よく考えて契約
- ②いらないときははっきり断る
- ③かつに署名、捺印しない
- ④えんりよしないで契約内容を確かめる
- ⑤お金はすぐに払わない

と(い)うことである。

さいたま市精神障害者家族会連絡会

川島 哲也

社会参加推進協議会委員として

地域が抱える課題を協力して解決

さいたま市社会福祉協議会事業課 川島 正弘

社会福祉協議会(社協)は、

社会福祉法に基づき社会福祉の推進を図ることを目的に全国・都道府県・市区町村のそれぞれに組織され、地域福祉の実現を具体的・計画的に推進する担い手として位置づけられた団体(社会福祉法人)です。

また、その活動は住民主体の原則に基づいて、地域が抱える種々の福祉課題を地域全体の問題として捉え、皆で考え、話し合い、活動を計画し、協力して解決を図ることを通して、福祉コミュニティづくりと地域福祉の推進を目指すことを目的としています。

さいたま市社協は、旧市合併、政令指定都市への移行に伴い十区に区事務所を設置し、その他に法人運営や事業の全市的な調整等を行う本部機能を浦和区に

置いています。

また、福祉コミュニティづくりのための基礎組織として、市区を四十七地区に分割し、自治会、民生委員児童委員協議会・ボランティアや福祉施設などで構成される地区社会福祉協議会と連携し、地域福祉活動を推進しています。

主な事業としては、①認知症の方、知的障害・精神障害のある方を対象に福祉サービスの利

用手続きや日常的な金銭管理を行う日常生活自立支援事業(通称・あんしんサポートさいたま)、②調理や買い物困難で見守りが必要な方を対象とした宅配食事サービス、③家事援助等を有償で行うあおぞらサービス、④手話通訳者・要約筆記奉仕員の派遣、聴覚障害者相談等を行っています。

その他には、①福祉サービスの利用に関する苦情等の相談に応じる福祉サービス苦情相談窓口、②日常生活上のあらゆる相談に応じる心配ごと相談所の開設、③社会福祉事業者の提供す

るサービスの質を専門的・客観的に評価を行う福祉サービス第三者評価、④ボランティアの育成や支援、福祉教育、⑤福祉情報等を一元的に把握・発信すると共に福祉に関する学習・研修を行い人材育成や福祉意識の向上を図る地域福祉・情報研修センターの運営を行っています。

さいたま市社協は、地域の多くの方々の参加と協力によって、支えられている団体です。皆様の声をどしどし寄せていただき、誰もが住みやすい街づくりを、ともに進めていけることを願っています。

平成20年度 社会参加推進協議会委員 敬称略

所 属	氏 名	所属部会
さいたま市身体障害者福祉協会	田口秀之助	身体
さいたま市手をつなぐ育成会	浅輪田鶴子	知的
(社)日本オストミー協会さいたま支部	松岡 英嘉	身体
さいたま市精神障害者家族連絡会	川島 哲也	精神
さいたま市聴覚障害者協会	牧野 悦子	身体
さいたま市視覚障害者協会	長谷川一郎	身体
NPO 法人さいたま市障害難病団体協議会	◎渡邊シヅ子	身体
さいたま市難聴者・中途失聴者協会	◎小池 和子	身体
さいたま市肢体不自由児・者父母の会	小泉 俊男	身体
障害者(児)の生活と権利を守るさいたま市民の会	浅賀 朱美	知的
ノーマライズうらわ	◎矢嶋 <small>のぶし</small> 脩司	身体
OMIYA ぱりあフリー研究会	神田 正子	身体
(社)埼玉県筋ジストロフィー協会さいたま支部	◎渡辺 郁江	身体
虹の会	関根 健二	身体
身体障害者相談員代表	中野 勇	身体
知的障害者相談員代表	羽生田千草	知的
精神障害者相談員代表	◎竹内 <small>まさひろ</small> 政治	精神
さいたま市保健福祉局福祉部障害福祉課	細見 俊孝	
さいたま市社会福祉協議会事業課	◎川島 正弘	
さいたま市保健所精神保健課	清水 雅子	
さいたま市障害者社会参加推進センターセンター長	望月 武	

平成20年度 社会参加推進センター開催事業一覧

事業名／開催団体	開催日／場所	対象／定員	テーマ・内容等
家族教室開催事業 (身体)	8月24・31日、9月21日、 10月5・12・26日、11月16・ 30日の(全て日曜日)全8回 大宮ふれあい福祉センター	市内在住または 在勤の難聴者と その家族ほか 各35名	手話の実技指導と難聴者の体験発表 家族間の円滑なコミュニケーションを図るため、基 礎程度の手話の学習をします。
家族教室開催事業 (身体)	9月12日(金)岩槻保健センタ ー内(旧身障会館) 9月14日(日) 大宮ふれあい 福祉センター 10月15日(水)岸町公民館 10月25日(土)与野本町コミュ ニティセンター	市内の障害者及 びこの問題に関 心のある方 各50名	「後期高齢者医療制度と障害者」 この制度は複雑で分かりにくい(65歳～74歳の医療 費減免措置の障害者はこの制度に加入したほうがよ いのか等) 専門家の埼玉県保険医協会講師にお話をうかがいま す。
家族教室開催事業 (精神)	9月21日(日) 浦和コミュニティセンター 第13集会室	会員・一般市民 90名	精神科医療について改めて考える。 地域生活支援センターに出来ることは? ①講師：日本精神神経科診療所協会副会長 平川博之氏「必要な精神疾患への早期支援」 ②パネルディスカッション 「家族体験から望む医療と社会の役割」
家族教室開催事業 (知的)	10月2日(木) 埼玉県障害者交流センター ホール	一般市民 60名	「地域の中で誰もが自分らしく生きていくために」 講師：さいたま市地域自立支援協議会会長 埼玉大 学准教授 宗澤 忠雄氏 “地域生活支援事業”についてさいたま市の取り組 みや活用例から考える。
生活訓練開催事業 (身体)	11月8日(土) 鈴谷公民館 大会議室	96名	「動脈硬化の効果的な予防法」 ～血管を若く保つ生活習慣～ 講師：自治医科大学附属さいたま医療センター 川 上正舒(まさのぶ)センター長
「障害者週間」 市民の集い	11月29日(土) 与野本町コミュニティセン ター	市内在住、また は在勤の方	「障害者週間」を記念して広く市民といっしょに障 害について考える催しです。 市セレモニー、障害者作品展、講演、音楽演奏、授 産品の販売、福祉機器体験など
生活訓練開催事業 (身体)	12月7日(日) 与野本町コミュニティセン ター	市内在住、また は在勤の方 90名	音声パソコン、拡大読書器等の体験学習。 講演：「視覚障害者のための最先端福祉機器・日常 用具の現状」
生活訓練開催事業 (身体)	1月31日(土)予定 鈴谷公民館 予定	心身障害児・者 と家族、介護従 事者及び関心の ある方 50名	「身体をとおしたコミュニケーション」 講師：春木 豊氏(県立川島ひばり養護学校教諭) 予定 身体の訓練を通して、心も体もほぐすことを目的に 実技指導。
生活訓練開催事業 (身体)	2月22日(日) 浦和ふれあい館	内部障害者とそ の家族 100名	心のケアを主の医療講習 第1部 医師による医療講習 第2部 ストーマケアについて 補装具業者による製品展示会
生活訓練開催事業 (身体)	2月28日(土) 埼玉県障害者交流センター ホール	聴覚障害者、手 話を学ぶ方、一 般市民など	テーマ「ろうの文化」 一般市民に手話言語への理解を深めてもらい、障害 者と交流を図ります。また、ろう者の文化とふれあ い、障害者運動がどのようなものであるかを知って もらいます。

(注) 上記掲載内容は平成20年8月現在の予定で、変更になる可能性もあります。

見えないから 見えることがある

藤崎 明美

「もはや戦後ではない」とい

われた昭和三十年代に生まれ育って五十年。けっこう刺激的な日々だったかも知れません。子供のころは映画「三丁目の夕日」そのままの高度成長期の時代の中でのびのびと過ごしてきました。二十代に入り学校を出て社会人となり結婚出産と平凡ながら幸せロードを歩いていたのです。

ところが三十代に入り急に目が見えなくなってきました。物にぶつかったり転んだり

字が読めなくなったりと、見えるような見えないような中途半端な中での子育ては、自信が無く不安でたまらなく緊張の日々でした。

子供たちが寝静まり、夫の帰りを待っている時間がホッと気が休まる時間でもあり現実逃避を考えてしまう魔の瞬間でもありました。妻であり母である私の顔は生気が無かったのではないかと思います。

今では子供たちも成人し、私の障害など気にする様子もありません。夫は見えなくても色々気づいてしまうので浮気もできないと言っています。障害をこだわっているのは家族でなく私

自身だったのかも知れません。あの時、今の平穏な日々を想像することなどできず苦しきにもがいていましたが、時が必ずいやしてくれるものだと実感しています。

現在では、見えなくなったことがバネになっていくように、あれもこれもやってみたいと思いが広がっています。

ある時、私の父親のような方から亡くなる前に「もうすぐ五十に届きそう? まだまだ子供。人間は死ぬまで子供。益々成長して立派な社会人になってください。見えないということ、色々見えることがいっぱいあるんだよ。見えないからと目を閉じていてはだめ。まばたきを忘れないように」とメッセージをいただきました。

いつか再会した時「明美さんも大人になったね」と言ってもらえるように障害に甘えず見えないからできるという力を養えたらと思っています。

事務局だより

広報担当も五年を過ぎると、内容も手法もマンネリ化してきた、どこかで違うところを作り出したいともがいていました。

その結果取り上げたのが「他の政令市ではどんなことやってるのか」という視点でお願いした新潟県、静岡市の社会参加推進センターの活動です。実は新潟市は政令市になったばかり。地震もあつたしどうしているかなと思ったら県といっしょにやっていると、県に原稿をお願いしました。

静岡市も政令市になったのはさいたま市の次ですから、きつというくらい悩みもあることでしょう。

分離しきれない政令市を見ていると政令市って何だろうと考えてしまいます。

リレートーク わたしはわたし



● 藤崎明美さんプロフィール ●

昭和32年10月30日生
家族は夫・二女一男・犬一匹
地元さいたま市に生まれ育ち
生活して50年。
平凡な専業主婦です。

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

一三三二一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三四一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

nifty.com

発行人 望月

編集人 浅輪 田鶴子